



速報新聞

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

キマグレ

拡大版

たわごと

# 私はこう思うII

コロナに負けるな!

未曾有の臨時休校を経て、新聞部員が何を考えたかを彦根東高校新聞のコラム「たわごと」の拡大版としてお届けします。みなさんは、今回の出来事をどう思いましたか。

「9月入学」に

複雑な思い

新型コロナウイルスによって変わってしまった生活に、私はとても複雑な気持ちです。

受験生になった私は、この休校期間中勉強に励んできました。本来は部活の引退後に本格的に始動すると思っていました。想像以上に早く受験勉強に取りかかることになりました。学校の授業時間が最低限確保できるよう学校の時間割にそって学習計画を立て、勉強機に向かっています。夏休みが予想外に早く訪れたと思つて今勉強しなければ他の人と学力の差がつくこと。学校再開後は授業が多くなること。学校再開後が忙しくなること。みんなが楽しみにし

健康に過ごすことが何より大事ですが、高校生活最後の年に楽しいことがなくなるのはとても悲しいしつらいです。

9月入学になればもう少し心ゆとりが出てくるのかなと自分は賛成派だと思つてみても反対派の人の理由にも納得する部分があり、なんともはつきりしない気持ちです。

くよくよすることがありますがそれでも健康で過ごせていることがまずありたいと心の底から思っています。家族との談笑や友達との面越しでの会話など。自分の気持ちをだれかと共有することできることが心の支えになっていきます。(誠)

足掻いた経験は

これから生きる

新型コロナウイルス感染症の予防のため、さまざまな活動が出来なくなってしまった。長期に渡る休校、東鬼祭の中止に加え、部活動の各種大会の中止が次々と発表され落胆した生徒も多いだろう。特に最後の晴れ舞台を失った3年生のことを思うと胸が痛む。私は部活動の大会の多くが中止になったことで本校生の活躍を取材し記事にして伝える機会がなくなったのが残念だと感じた。だがこうち総文などはオンライン開催が決定しており、他にも運動部文化部共に色々な組織が代替大会の開催を検討している。例年通りの開催は叶わないが、何らかの形で場ができるかもしれないという希望はある。

今は生徒も教師も、誰もが戸惑いながら試行錯誤する時期だと思う。酷だが、なくなってしまった大会はどうしようもない。けれど気を落とすことなくそれぞれができる範囲でできることを精一杯頑張つて積み重ねていくのが大事だと思う。イレギュラーな事態ばかりの日々だが、その中で色々な感情を抱えつつ努力したことも振り返れば貴重な経験であり、結果がどうであれ、その足掻いた経験はこれからの人生に生きてくるはずだ。私もそう信じて自分の能力を磨き、新聞部員として新たな活動も模索していきたい。(侑)



彦根東高校 公式キャラクター ぎんにゃん



当たり前の日常の

ありがたみを感じた

新型コロナウイルスの流行は良くも悪くも多くの人の生活を変えてきた。たっかきとなったのかもしれない。たっかきさんの自由な時間が増えてきたこと、自分について見つめ直すようになった人。普段の自分の生活態度を見直し、食事や運動に気をを使うようになった人。私の場合はあまり勉強に集中することができず、スマホをいじったり、ゲームをしたりして堕落した生活を約3か月続けてしまった。良く言えば、普段の生活ができない反面丁寧な生活を送ることができた。朝学校に行き、授業を受けて友達と

食べる。当たり前の日常を送れることがどんなにありがたいことか身をもって感じた。学校に行けないこと、授業が遅れること、友だちに会えないこと、部活動ができないこと、東鬼祭がなくなつたこと、たっかきさんの不満がある。このような不満を解決してくれる対策を国が取ってくれることを願う。

最後に約3か月の間、医療従事者の方たちを始めとする感染拡大防止のために最前線で戦つてくれた方たちに感謝の言葉を述べたいと思う。ありがとうございました。(梅)